平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 7	公益目的事業 17
主査名	根本敏則 • 一橋大学大学院商学研究科 教授	
研究テーマ	維持更新時代の道路課金と交通管理に関する研究**	

研究の目的:

大型車対距離課金制度、大型車交通管理の分析枠組みの整理 対距離課金、大型車交通管理に関する諸外国の動向の把握・整理 わが国において対距離課金、大型車交通管理を導入する際の課題の整理

研究の経過(4月~9月):

28 年度は本研究の過去の研究成果を日交研研究双書として刊行することとなったため、年度前半は 双書の全体構成、各部、各章の担当などを決め、その後、執筆、取りまとめを行っている。年度内に 刊行できる予定である。また、並行して、各国の大型車対距離課金、大型車管理に関し最新情報を収 集し、議論した。

第1回 4月9日

倉橋氏より「ITS の国際標準化:次世代の規制商用貨物車の運行管理」、野口氏より「欧州における重量車課金の最新動向」、兵藤氏より「三環状道路整備と物流施設の展開」、脇嶋氏より「オーストラリア、クイーンズランド州政府大型車交通管理資料」、根本より「日交研双書編集方針」の発表があり、その後討議した。

第2回 6月2日

野口氏より「低排気ガスゾーン」、脇嶋氏より「豪州における連結車両の導入について」、倉橋氏より「規制商用貨物車のオンライン運行管理の国際標準化(更新)」、佐藤氏より「米国 ETC 相互運用の動向」、根本・加納氏から「首都圏の新たな高速道路料金導入後の1か月の効果」「ダブル連結トラック実験方針」の発表があり、その後討議した。

第3回 7月28日

野口氏より「カリフォルニアでの道路課金パイロット実験」、廣瀬氏より「デラウェア州対距離課金パイロット実験」、倉橋氏より「貨物車の運行管理の国際標準化」、佐藤氏より「ポルトガルのETC 多目的実験」、根本から「維持管理時代の道路課金・交通管理」の発表があり、その後討議した。

下期へ向けて (課題等):

今後、さらに海外事例の調査を継続するとともに、首都圏 3 環状で大型車を誘導する区間、それ以外の区間の社会的外部費用の計測枠組みを整理し、大型車を中央環状より外側に誘導する料金施策、 交通管理施策について検討したい。

研究メンバー (敬称略):

根本敏則(主査・一橋大学)原田昇(東京大学)兵藤哲朗(東京海洋大学)田邊勝巳(慶応義塾大学)塚田幸広(土木学会)野口直志(三菱重工業)倉橋敬三(ケン・パートナーズ)佐藤元久(東日本高速道路)廣瀬順一(道路新産業開発機構)脇嶋秀行(建設技術研究所)今西芳一(公共計画研究所)利部智(公共計画研究所)

国土交通省:吉岡幹夫 橋本雅道 松本健 加納陽之助 西尾崇 手塚寬之 渡邊良一